別紙４

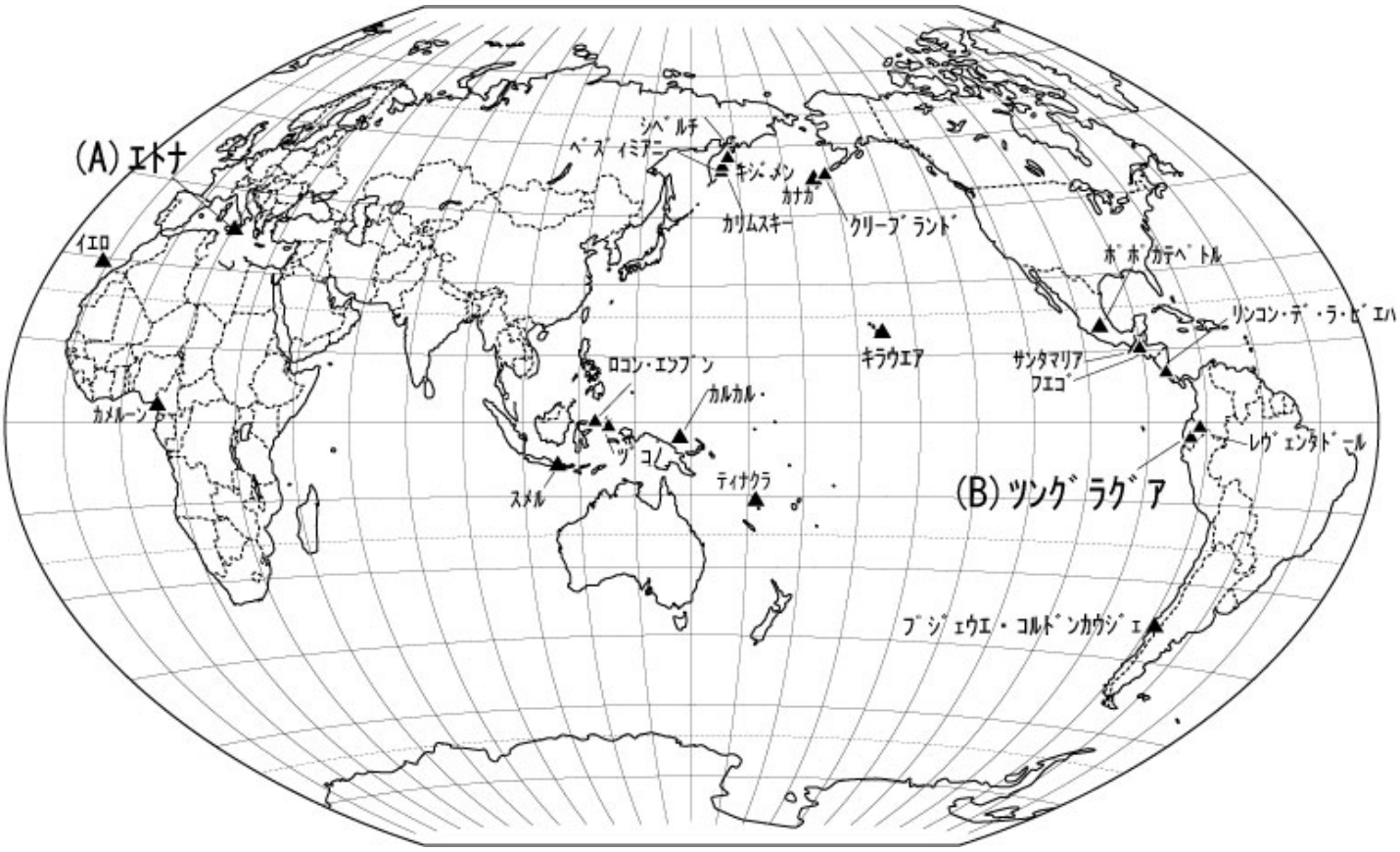
● 世界の主な火山活動

平成 24 年（2012 年）２月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ（イタリア）（図中Ａ）

８日に新たな南東火口から突発的な噴火が発生した。同日午後には爆発の頻度と激しさが増し、19 時頃発生した溶岩流はその後活発になって溶岩噴泉に変化した。９日には溶岩噴泉が 500ｍの高さまで上がり、溶岩流が火口から３㎞の場所まで達した。また、直径数ｍの火山弾を噴出する爆発が発生した。同日９時頃から活動は衰え、10 時に突然停止した。

ツングラグア（図中Ｂ）

４日に爆発が発生し、火山灰が火口縁上７～８㎞の高さまで上がり北東へ流れた。９㎞北の都市で火山れきの降下がみられ、23 ㎞北西の都市で降灰と鳴動が報告された。同日には火砕流や高温の岩塊も確認された。その後も火山灰を噴出するなど活動は継続した。24 日にはストロンボリ式噴火が発生し、高温の物質が火口縁上 500ｍの高さまで上がり、西及び北西山腹に落下するのが確認された。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）